

HTLV - I 母子感染調査

研究班

担当 母 里 啓 子

衛 藤 隆

はじめに

昨年度の本研究班の研究成果から、研究協議会は、HTLV - I 母子感染の頻度を明確にする必要があること、このためには班としてHTLV - I キャリア妊婦から出生した児の長期追跡調査を行う必要があることを確認した。これを受けて、本研究班は「HTLV - I 母子感染調査票」（以下「個票」）、「授乳法別 HTLV - I 母子感染調査票」（以下「B 票」）を作成し、主任研究者名で平成元年12月25日付で「HTLV - I 母子感染調査のご依頼」という文書と共に各班員に郵送した。本調査は本年度および平成2年度の2年間行うものであるが、今回は本年度の第1次集計について報告する。

方 法

昭和60年1月1日以後にHTLV - I キャリア妊婦から出生した児で、少なくとも1歳まで定期的な追跡が可能であった児（以下対象児）を調査対象とした。

分担研究班のうち、疫学研究班の6名、予防対策研究班の7名、保健指導研究班の13名の各班員計26名に以下の調査票を送付し、記入・回収を依頼した。

対象児1例ごとの出生後のHTLV - I 抗体および抗原等の結果を記入する書式の個票（図1）と1施設で追跡している対象児を授乳法別にまとめ、追跡期間ごとにHTLV - I 抗原、抗体を獲得もしくは消失した例数を記入する書式のB票（図2）を作成した。可能な限り、個票にて回答していただくことを原則とし、症例数が多い等、やむを得ない事情がある場合に限り、B票で回答していただいても良いこととした。

平成元年12月31日までのデータを研究班事務局にてとりまとめた。

成 績

1. 個票は6施設より送付され、計140例の個票が回収された。授乳方法別の症例数を表1に示す。
2. B票は10施設から送付され、授乳法別および追跡期間別の対象症例数は表2に示される通りである。

表1 HTLV - I 母子感染調査票回収状況

授乳法別	回収数
母乳	5
混合	10
人工	119
その他	1
不明	5
合 計	140

表2 授乳法別追跡期間別 HTLV - I 母子感染対象症例数

授乳法	母乳	混合	人工乳	その他
追跡期間				
0-1Y未満	144	116	626	53
1Y-1Y6M未満	144	116	532	44
1Y6M-2Y未満	116	106	337	27
2Y-3Y未満	90	93	206	17
3Y-	57	20	56	

考 察

今回の調査は調査票配布から回収までの時間が短く、回収率は個票で23%、B票で38%と、全国状況を知るには十分な回収率とはいえない。

対象とした昭和60年以後の出生児について授乳方法をみると、追跡期間1歳～1歳6か月未満では、母乳栄養を1とした場合、混合栄養0.8、人工栄養3.7となっていた。

わが国におけるHTLV - I母子感染の現状がどのようなものであるかを把握することは、保健行政上も重要であり、本研究班において全国の班員に協力を求めて行う本調査は非常に意義がある。このためにも、検査方法とその評価が必ずしも統一されているとは言えない現状では、ぜひとも個票による分析が必要であり、今後班員諸先生のいっそうのご理解とご協力をお願いする次第である。

図2 (B) 授乳法別HTLV-I母子感染調査票 (母乳栄養・混合栄養・人工栄養・その他)

取扱い代表医師名 _____

施設名・科名・医師名					↑ ()内の該当する授乳方法を一つ選び○で囲んで下さい
追跡期間	追跡期間内 対象症例数	追跡期間内 HTLV-I抗体 獲得例数	※累積抗体 獲得率	追跡期間内 獲得抗体 消失例数	追跡期間内 HTLV-I抗原 獲得例数
0ヵ月～1歳未満			/	/	抗体検査法 (同一施設で方法が同じ場合は1枚目のみ御記入下さい) 1. PA法を用いた場合、確認試験の方法はどのような方法ですか? → ()
1歳～1歳6ヵ月未満			/	/	2. EIA (スクリーニング) 陽性の基準は? → cut off index () 以上を陽性とする
1歳6ヵ月～2歳未満			/	/	3. EIA (確認試験) の場合 → 抑制率 () % 以上を陽性とする
2歳～3歳未満			/	/	
3歳～			/	/	

① この用紙は簡票 (A票) を御提出いただけない御事情がある場合に、症例をとりまとめて御記入いただくために用いるものです。

② 乳児への授乳法別に症例をおまとめ下さい。各方法ごとに本用紙を1枚ずつ御使用下さい。

③ 追跡し得た期間別に症例をおまとめください。

④ 追跡期間内獲得抗体消失例数のらんは、児が獲得したHTLV-I抗体が消失した場合について集計して下さい。母体からの移行抗体が消失した場合を含みません。

⑤ ※印のらんには記入しないで下さい。

厚生省心臓血管研究 成人T細胞白血病 (ATL) の母子感染防止に関する研究班 (主任研究者: 重松造)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに 昨年度の本研究班の研究成果から、研究協議会は、HTLV-1 母子感染の頻度を明確にする必要があること、このためには班として HTLV-1 キャリア妊婦から出生した児の長期追跡調査を行う必要があることを確認した。これを受けて、本研究班は「HTLV-1 母子感染調査票」(以下「個票」)、「授乳法別 HTLV-1 母子感染調査票」(以下「B 票」)を作成し、主任研究者名で平成元年 12 月 25 日付で「HTLV - 母子感染調査のご依頼」という文書と共に各班員に郵送した。本調査は本年度および平成 2 年度の 2 年間行うものであるが、今回は本年度の第 1 次集計について報告する。